



大正4年 (1915)



昭和10年 (1935)



平成7年 (1995)



房州伊勢の宮
天津神明宮

千葉県鴨川市天津2950
☎ 04-7094-0323
www.shinmei.or.jp

写真提供 鴨川市郷土資料館



昭和30年 (1955)

鳥居木



曳いて結んで
次の二十年へ

その杉は百年以上、その時を待っている。

二十年に一度の大祭
天津神明宮／須賀神社
式年鳥居木曳祭

平成27年8月22日(土)・23日(日)・24日(月)

祭りが命のこのまちに、鳥居曳がやってくる。

式年鳥居木曳祭とは？

式年鳥居木曳祭（しきねんとりいぎひきさい）とは、天津神明宮で二十年に一度行われている鳥居の建て替え神事です。

式年とは定められた年という意味で、寿永3年（1184）源頼朝により伊勢の神宮より天照皇大御神（アマテラスマスメオオミカミ）、豊受大神（トヨウケノオオカミ）の御分霊を勧請して創建された当社において、伊勢の神宮の式年遷宮にならい、行われている神事であります。

以前は伊勢の神宮と同じく、社殿そのものを建て替えていたとされていますが、毎回社殿を建て替えるには氏子の負担があまりにも大きく、鳥居の建て替えに代えて行われるようになったと言われています。

御用木には地元の杉が使われます。杉は旧天津小湊町（現在の鴨川市天津小湊地区）の町木でもありました。鳥居の建て替えが行われる前年秋（11月頃）には御用木を山から伐り出す、**神木斧始祭**（しんぼくおのはじめさい・伐採式）が行われ、一連の神事が始まります。

伐り出された御用木は**神木送祭**（しんぼくおくりさい）の後、町内に安置され、氏子の奉仕により、皮むき・磨きがなされます。

約9ヶ月寝かされた後、建て替えの年の夏、氏子の手によって御用木を数日間かけて天津各町内を曳き巡らし天津神明宮に曳き納める、**鳥居木曳祭**（とりいぎひきさい）の神事が行われます。鳥居木曳祭は伊勢の神宮の式年遷宮で言うところの御木曳（おきひき）であり、最も規模の大きい神事です。普段静かな天津の街中ですが、鳥居木曳祭の間は大勢の人たちが繰り出し、熱気と興奮に包まれます。

曳き納められた御用木は**鳥居木造始祭**（とりいこづくりはじめさい）の後、大工の手によって加工され、同年10月に鳥居として立ち上げられます。

天津神明宮例祭日（毎年10月16日）の前日である10月15日には**鳥居通初上棟祭**（とりいとおりぞめじょうとうさい）が行われ、翌16日新しい鳥居が聳える中、例祭式が行われます。

天津神明宮の主祭神である天照皇大御神の弟にあたる須佐之男命（スサノノミコト）が祀られている須賀神社（通称：天王様）においても、あわせて鳥居の建て替え神事が行われます。

今回の鳥居木曳祭は**平成27年（2015）8月22日(土)・23日(日)・24日(月)**の3日間にわたって行われます。御用木の杉は**東京大学千葉演習林**の協力により提供されます。

県内では他に類を見ない奇祭であり、二十年に一度の貴重な機会に氏子はもちろん、市内外の多くの方々にぜひご参加いただきたいと思えます。

東京大学千葉演習林より提供される御神木

今回の御用木は東京大学千葉演習林より払下げ、提供されます。千葉演習林は我が国最初の大学演習林として、明治27年(1894)に創設されました。約120年の歴史を数える由緒ある演習林より、地域の伝統行事のために樹木が提供されることは特筆すべきことであり、関係者の努力により実現されました。最大の樹木で胸高直径120cm以上、樹高に至っては50mにも及ぶ、樹齢100年を超える巨木になります。



天津神明宮 御由緒

〈御祭神〉天照皇大御神（アマテラスマスメオオミカミ） 豊受大神（トヨウケノオオカミ）
八重事代主神（ヤエコトシロヌシノカミ・えびす様） 大山祇大神 ほか七柱の神を合祀

神代のむかし、大国主命とともに日本を治めておられた事代主神は天孫に国土を献つてのち、海路はるばる当地においでになり、東方鎮護の神として永くこの地にお鎮まりになったため、人々は宮殿を建て、庠明神（もうけみょうじん）と尊称したと伝えられています。

その後、鎌倉に武家政治の基を開いた源頼朝公が戦に敗れて安房の地に逃れてきたとき、源家の再興を伊勢の大廟に祈願され、見事成就されたことにより、天下平定の後、寿永3年（1184）、当地に伊勢より神霊を勧請し、庠明神とともに祀りされたのが「房州伊勢の宮」と仰がれる当社であります。

小湊に誕生された日蓮聖人も当社をいたく尊崇されていたことはあまりにも有名な話して、修行地清澄への道程、必ず当社を参拝されたと言われています。また、御遺文中にも当社を「日本第二のみくりやや今は日本第一なり」と記され、天照皇大御神が当地に鎮座されていることをもって、当地を「辺国なれども、日本国の中心のごとし」とされています。開宗ののち、妙法弘通を当社に記念され、そのとき奉納されたと伝えられる「川向の御曼陀羅（布本尊）」が神社の宝物として、伝えのこされています。

神事日程

しんぼくおのはじめさい
神木斧始祭 平成26年12月8日(月) ※ 荒天の場合、11日(木)

鳥居曳が行われる前年の秋、御用木を伐り出す神木斧始祭が行われます。誠に清め、伐採を奉告する祭典を執り行った後、杣夫（そまふ・伐採師）によって御用木が切り倒されます。今回は東京大学千葉演習林より7本の杉が提供されます。最大のもので胸高直径120cm以上、樹高に至っては50mにも及ぶ、樹齢100年以上を数える巨木です。これだけの巨木を切り倒すことは現在当地では稀少であり、見応えのある神事となるでしょう。平成26年(2014)11月頃の齋行を予定しており、詳しい日程・内容は現在調整中です。

しんぼくおくりさい
神木送祭・神木磨

伐り出された御用木は神木送祭の後、町内に安置され、氏子の奉仕によって皮むき・磨き作業が行われます。きれいに皮むきされ、磨かれた後、約9ヶ月寝かされ、鳥居曳での奉曳をじっくり待ちます。

とりいぎひきさい
鳥居木曳祭 平成27年8月22日(土)・23日(日)・24日(月)

鳥居木曳祭は一連の神事において最も規模が大きいものです。伊勢の神宮の式年遷宮で行われる御木曳神事に倣ったもので、数日かけて、御用木が氏子の手によって天津各町内を曳き巡らされ、最終日天津神明宮の境内に曳き納められます。

今回は3日間かけて、天津神明宮の御用木3本（第一号木・第二号木・第三号木）が奉曳され、初日には須賀神社（通称：天王様）の御用木1本もあわせて奉曳されます。奉曳される先々ではさまざまな神賑行事が企画され、街は大勢の人たちで賑わいます。

■ 奉曳日程（予定） 8月22日(土) 天津小学校校庭にて出発式
天津神明宮・須賀神社 奉曳
須賀神社曳納め・奉曳奉告祭
23日(日) 天津神明宮 奉曳
24日(月) 天津神明宮曳納め・奉曳奉告祭

とりいぎてつきょうじしき
鳥居木撤去工事式

新しい鳥居を建立するに当たり、古い鳥居は祭典の後、撤去されます。※今回は鳥居の損傷が激しく、倒壊の危険が高まったため、すでに撤去されています。

とりいぎこづくりはじめさい
鳥居木造始祭 平成27年秋

御神木を加工するにあたって、鳥居木造始祭が行われます。祭典の後、地元の大工によって御神木は鳥居へと加工されていきます。

とりいとおりぞめじょうとうさい
鳥居通初上棟祭 平成27年10月15日(木)

加工された鳥居は建立され、天津神明宮例祭日（10月16日）の前日15日、鳥居通初上棟祭が行われます。神事の後、神職を先頭に行列が組まれ、新しく建立された鳥居を通り初めします。社殿で奉告祭を齋行し、境内では餅まきなどの神賑行事が行われ、通り初めをお祝いする大勢の氏子・参拝者で賑わいます。この神事をもって、式年鳥居木曳祭の一連の神事は完結します。翌16日には式年鳥居木曳祭を終えた初年の例祭が行われます。



神木斧始祭



出発式（鳥居木曳祭）



御神木のまわりに集まる人々（鳥居木曳祭）



鳥居木造始祭



鳥居通初上棟祭

ご浄財をお願い申し上げます。

約一年の期間をかけて齋行される式年鳥居木曳祭は氏子各戸からの負担金、崇敬者や一般の方々の寄付により行われています。伊勢神宮の式年遷宮に倣った、地域の誇りである伝統神事を未来に継承していくため、式年鳥居木曳祭実行委員会では、みなさまからのご浄財を募っております。ご賛同とご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

●受付窓口 ☎ 04-7094-0323（天津神明宮）